

SUBARUとソフトバンク、5GおよびセルラーV2Xを活用して、 安全運転支援や自動運転制御に関わるユースケースの共同研究を開始

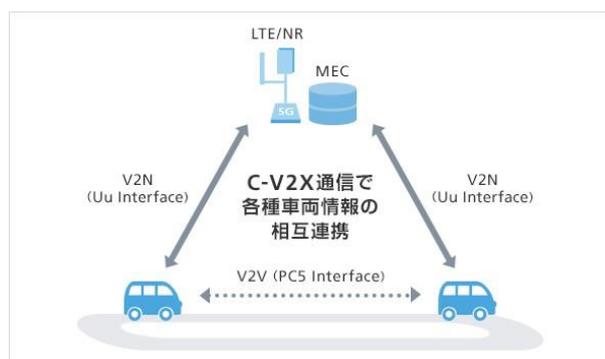
～SUBARU北海道・美深試験場に通信環境を構築し、自動運転車で実証実験を実施予定～

株式会社SUBARU（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：中村 知美、以下「SUBARU」）とソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 兼 CEO：宮内 謙、以下「ソフトバンク」）は、自動運転社会の実現に向けて、第5世代移動通信システム（以下「5G」）およびセルラーV2X※1通信システム（以下「C-V2X」）を活用したユースケースの共同研究を開始しました。

SUBARUは、2030年に死亡交通事故ゼロ※2を目指しており、独自の「総合安全」思想の下、これまでアイサイトで培ってきた先進安全技術をさらに進化させるために、「つながる技術」の研究開発にも取り組んでいます。

ソフトバンクは、新たな体験や価値を提供するサービス・ソリューションの研究開発に取り組んでいます。MaaS事業の検討や5Gなどの最先端通信を活用したコネクテッドカーの実証実験も、その一環となります。

両社は今後共同研究を進めて、今冬からスバル研究実験センター美深試験場（北海道中川郡美深町）のテストコースに、ソフトバンクの「おでかけ5G」（局地的に電波品質の高い5Gを提供できる可搬型設備）を設置し、ノンスタンドアロン標準仕様※3の5Gネットワーク環境およびC-V2Xの通信環境を構築して、実証実験を行います。この実証実験では、基地局と車両および車両と車両間で通信を行い、安全運転支援や自動運転制御に関わるさまざまなユースケースを想定した技術検証を行う予定です。



本実証実験概念図



実証実験車両(SUBARU インプレッサ SPORT)

※1 3GPP（移動通信システムの規格策定を行う標準化団体）で標準化された通信規格で、モバイルネットワークを用いて車両間、交通インフラと車両間、ネットワークと車両間、歩行者と車両間などで通信をする技術。

※2 SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUとの衝突による歩行者・自転車運転者などの死亡交通事故ゼロに。

※3 LTEとの連携によって5Gの性能や機能をいち早く実現できるようにする仕様。

- SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- その他、このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。